天子より下庶人に至るまで孝を以て本とす
忠臣は孝子の門に求むると云り孝経は父子の道は誠に天性自然の道
にして親は子をいつくしみ子は親を敬し事て孝を守り奉養をつ
とめり幼より物学びさせんと思ひ先孝道より教へべし諺にも烏は反哺の
孝あり鳩は二枝の礼儀ありとや況や人間において哉
と詩にも詠り児童のうたも常に是を唱歌しむと云り其詩古くより伝
是を二十四孝と云上は舜帝文帝を始め下黄香江革が如き至道
貴賤の差別なく其身に応じて孝道を尽せり支那の童に教の一助とする
然れども其他不思議なる奇異の耕をせり云るい其徳行をえらび巨が子を拾んとせ
て黄金を得る孟宗が竹ぐるを諫ぎて筍を得て養ふ呉猛
が赤蜆にて蚊に苦むを双親の患ざる為子が鹿の皮をもちいて蚤乳を

大舜

有虞氏高祖舜姓は姚名は重華黄帝の後なるとぞ人となれども孝行と尽し母も安からず常に舜を殺さんと計れども舜は天下を治むるの王となるべき人なれば天の助けありて母の為に殺されず却て母の盲目の治りたるを喜びて孝行を尽せり

導んと甘一ゟ董永が天女の妻と得る王祥が氷ゟ臥して魚を待の如き各其理論ゟあるとぞ古説を稱するゟ似たれども従来此一段ゟ以て孝道を然りとするゟあらず孝子の至誠常の行ひ志の篤実より出て推んる美賞とべきの教るり支を捨て其義を取時の神明ゟ感ありて得たるを得時ゟざるを食して病と癒ま増ゟ加ゟ怪しき神ゟ天の感得ゟ助ゟるのるれべ凡慮の及ぶゟあらず徳行をいて克孝道を務る者ゟ神の霊験必ゟるり美詩唐夫人の如き姑ゟ孝と尽せるの稀るり婦姑勃谿と雖姑ゟ必中あき俗情ると怠ず供養ゟ孝行ゟるり児女の教の捷径るり支の虚実ゟ暫措て孝子の名千載の美談とるること並べ務ても猶勤ゟ免れ孝行の道ゟをゟりける

一筆莽の窓下ゟおらく

元名翁誌

▼孝子象と云ふは舜の事なり舜は父母に
おくれ父母をしらずして叔父に
あいまゝをふうくされども舜は
ふかうけゝる故に叔父もよく
そだてあはれみ父母をしらるゝと
寺て父母とやうにつかふるなり
又ところ不由と耕しとする
物のうまれその孝行の志
禽獣までも感心
象ぞうが舜のうへに苗
の害ふかる草と共
にそうこれみな孝の誠
天道感動のよるり
時の天子と尊帝とよけり
舜の孝行をきゝせうとさきの后
られ天子の位を九人まであらと
堯白皇女英と云二人の姫君をもつて
后妃ふそうて遂ふ天下と
舜ふゆづりの是孝道の

○亟度の象ふ本りて
耕作を耳けゝ
いろ〳〵の象ふ
兄の像り作
助力せ
過ぢなの
美禅ある

左傳と
いる書
復讐
を作
帰せ

天ふ受ふ不聖徳の
天ふあらぶ
みとゝもれぶ
あり云ふ
孔子も天地の
甘の人をそう
孝より天いふ
詩曰
隊々耕春
象。紛々芸
草禽。嗣レ竞
登宝位。孝
感動天心

○前の本文ふ曰とあり
心徳ふのをうけ
ふりぶる須とのこ
口ふ忠信の言ふあり
ぎるを曰と云と▲

漢の文帝

前漢の文帝は高祖の代より四代の賢君と謂
ゞ恒に心掛ける高祖第二の太子にて
のち天子となりたまふ文帝
法漢王ふるひ文帝
母堂を尊び太后と
天子の母君を
文帝つゝ母の太后に美食
帝孝行おつるものふかる
母君こゝろよく
はるやこのごとくなる文
母君こゝろよく
母君こゝろよく
母君こゝろよく

孟宗

晋の孟宗のちゝ孟仁といふ字を恭武と号す三国の呉の人なり三国の代を得うる為に時よう水手調ととのへ、あまたの官人を向ふつかはす晋の武帝の時臨湘司馬となりけるが母を母の方へおくりて沙汰をさせて後のきさいをもらひ孟宗幼少の時父まかれ

○孟宗の呉の孫皓と云人

○楚国先賢傳。

蒙求

竹生

本文

雪中のこと

孤となり母の老衰をやしなふ家の貧をうれひて竹林にいり天にいのりければ筍生ず孟宗の母の筍をほしがるをうけて竹林にいり天にいのりければ筍生ず

詩曰

淒凄風寒
蕭々竹数竿
貧史春筍出
天意報平安

郭巨

後漢の郭巨あざなは文挙とよび河内とよびところの人家まづしくて母を孝養あつし子あり三歳なり母つねにその孫を愛しその口にとるを食をうばひけるゆえ郭巨つまにむかひいかにもうつくしき子なれどもまたまた得がたかるべし子をうづみ母の食を潤すべきものをとて穴をほりけるに一つの金釜をえたりその釜に文字あり

○郭巨が子の孝行ほとけの書給ものせうの本文に黄金一釜をえたりとありて余の面数をけしたりとかいてあり

天賜孝子郭巨官不得取　人不得奪

詩曰

郭巨思供給　埋子願母存
黄金天所賜　光彩照寒門

楊香

楊香とゐう女は晋の代魯國の人楊豊と云人のむすめ也年十四の時田圃とゐうて耕地ゟ出栗をさらんとするとゐう猛虎きたりて父をひきふせてもんとをゐうてもんとを楊香女のとゐうれどもすこしもおそれず虎のふるきりめのうへにのりかゝりて居るをかたへより心もとなく虎のひたいをびんとつきて父をたすけてこれをうちふべとゐうけれどもそれも此孝心を感じてや楊豊をそんじ色さらにそれのこゝろもなけれどもわらびもわらびもをそれて山のくまへかけさりぬ至孝のなるほどゆへ此孝行の徳ゟよるものなり

詩曰

深山逢白額　努力搏暉風
父子俱無恙　脱離銜口中

此時結の一章草異同あり

脱身免甲中　と書ゐうもあり

白額暉風ともゐうもあり

白額ハ虎の異名

暉ハ悪い人を害する出ゝ

昔ゟくらべるんさせて更ゝでもするゐうのあんばいとをふおつくる意を云ゐうとぞ

○楊香ゟ其所の大守孟敬事ゝ聞人ゟの告文をきゝて大いに稱歎ー楊香ゟ来あまねくあつて孝行を尽さゝめけるとぞ

董永

後漢の董永字を延年と云家貧窮にして父と老て見たる車牛のせそ田のあぜのまもるきおへつれもなきそやーきそなくうその刻い人ゆやこれうぶらのちんせんをそうて葬祭をつくけるに父死して葬るこあらぬ主人おうぎ一生の労をくるこ人れと色銭をかりそをうれいをと銭をうくるりふらさーんとせーなをそ二人のいし美女おあうの人をうあへがつまおゆーんとりてまう来の田中も

○斯てこ人うつれて帰ゆ下男ゆくやうに助力せんなりとのひ給ふ心空さうけるとうん

○董永ノ事ハ漢書ト小異アリ

○此故事大同

勤孝

蚕

父貸方兄

天一妃百上迎

織縑償債主

孝感盡知名

方兄ハ綾ノ誤名之人多くつむと見ゆ

のごーとくべきり

曾參

周の曾參字は子輿と云ふ曾子母に
つかへて到孝の誉れ有り魯國の南武城の人
なれば子の高弟子思子孟子等も曾子の
門人なり曾子母の命にて瓜を植ゆるに
誤て瓜の根を切る母大に怒り杖を
もつて曾參を打つ曾參倒れて地に
伏す母の怒り解けて後曾參蘇生す
孔子聞て曾參は孝心厚きゆへ
母の怒りを和らげんが為に
杖を以て打たせよと云ふ
孔子の心も曾參の心も
孝の道に通ずるなり

詩曰

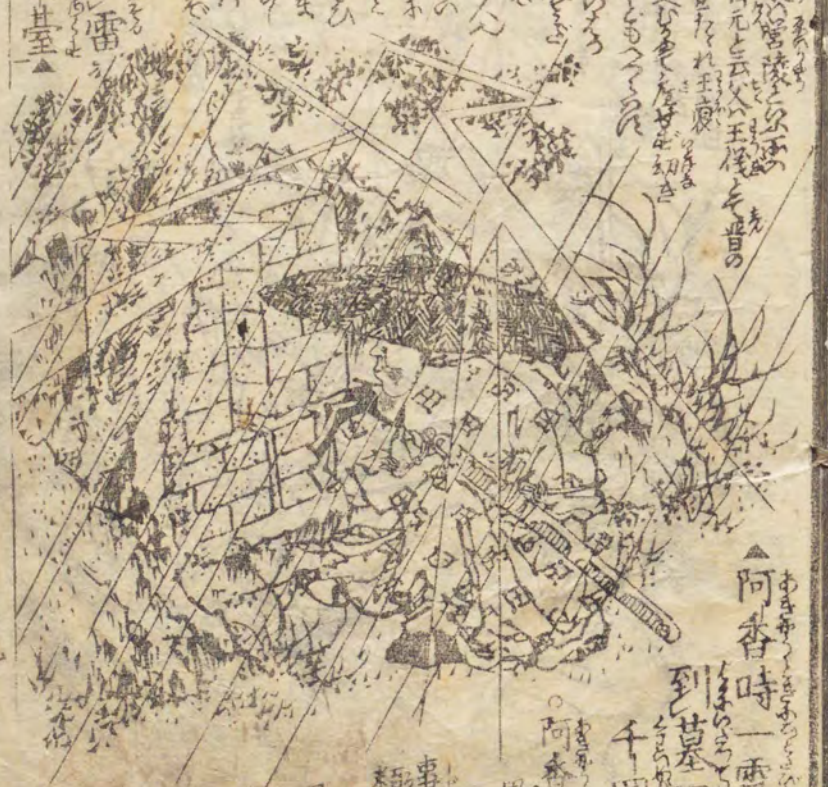
母一指含二方曠一
児心痛不レ禁
負レ薪帰未レ晩
骨肉至レ情深

王裒

晋の王裒人と成て王俊と云ふ人と
文帝に訴へ罪に落んとす裒が
これを聞一計のあるに
よつて種をのこして
耕しまことに父の
ごとくにして
母をこのみ
母をこのみ
母そのころ
雷をこのみ
雷なれば
母のかたへ
ゆきて
いつも
母を
なぐさめ
ける
ゆへ
母
雷
を
こわ
がら
ざり
しと
なり
母
死
して
墓
の
そば
に
庵
を
結び
三
年
の
間
墓
を
はなれ
ず
母
の
墓
の
ほとり
に
柏
を
植
ゆ
柏
は
母
の
名
なり
母
の
墓
に
詣
で
ては
いつも
泣
き
悲
しみ
ける
ゆへ
墓
の
ほとり
の
鳥
獣
までも
哀
れ
を
知
りて
鳴
くが
ごとく
なり
ける
ゆへ
世
の
人
王
裒
が
孝
心
を
感
じ
ける
とぞ

詩曰

慈母怕レ聞レ雷
永魂宿夜臺



▲阿香時一震
到二墓廻一
千一回

○阿香は雷の異名
事文類聚

呉猛

晋の呉猛字は世雲と云濮陽の人父
少きより孝行の誉ありしとし八才の内
夏かやをもたれども家貧ゆへ蚊もおほく
よろづ心ゆたらざりければつね衣を親にきせ
あまざりおのれそのそばにふし一蚊も
あつかせざりしとぞ其のちそのあたりへ
蚊のすくなくなりしとぞ或ものがたりに
よるもすがら蚊をねむりおろさざるゆへ
そとるの父母安らかにそのち丁義と
いふ仙人の術をもつて約そ仙
法をまなびなるとぞまことに孝行のあまき
志くんぢちふかあまりのゆへ

詩曰

夏夜無帷帳蚊多不二敢揮一恣渠膏血
飽免レ使レ入二親聞一

孟女詩

姜詩は後漢の代の廣漢と云ふ所の人なり母を仕
道とて父をうしなひ二人の母ありて孝
なりあるとき母の常に水をこのめども竈氏
とて姜が二十里ばかりとをくへだたりたる
所の水をこのめども竈氏ひまをとりてそ
とへをやるある時風雨つよく女のこゑ及
ざりければその子四歳にてありけるを
江中へ入て死をこひ母これをきゝをそ
学問のこゝろざしあるゆへ母にこれをきかせ
ずしてひそかに夫婦ともに云ふ母ありて
子あれば子ありて母なしと夫婦ともに
子をうしなふとも天下通ひて
妻がもとの傍の江湖の水をくみ来り
ねだる鯉をそ他とる
つせとなりまた婦がまことなりと下天
詩曰

舎側甘泉出　一朝双鯉魚
婦更孝二於姑一　子能知二事母一

母小芋を尽せりとなり

○後漢書曰
竈氏が永とをもて風あつく
姜子妻をいふなれどもてそのあまり

朱壽昌

宋の朱壽昌は天長の代の人なり父の雍及の妾ごとる壽昌が母いまう氏のむすめなりけるの始つときゞ母の家ゟ止てそだてるぞ壽昌が七才のときこれをのそいて他のものへかどごとう壽昌せい長して神宗帝のつく
[illegible]
一日も母子なきことを歎ぬ母をたづねんと
もとて母そだてられつゝ秦の国ゟそたづねあるその時母の年七十ゟまれり
こゝろ[illegible]
[illegible]
[illegible]